

国土交通省近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所 独立行政法人水資源機構日吉ダム管理所
資 料 配 布

配 布 日 時	平成22年 7月15日 18時00分
------------	-----------------------

件 名	ひよし 日吉ダムの洪水調節(7月12～15日梅雨前線)について —桂川沿川の河川水位低減に効果を発揮—
-----	---

概 要	日本付近に停滞していた梅雨前線は7月12日より西日本に大雨をもたらしました。淀川水系桂川の日吉ダム（京都府南丹市日吉町）上流域（京都市右京区京北）でも、7月14日の20時から22時にかけて、流域平均の2時間当たり雨量が71.9mmを記録し、総雨量は7月12日21時から7月15日13時にかけて170mmに達しました。 この降雨による出水により、日吉ダムでは最大流入量が（15日1時18分）毎秒698m³となり、日吉ダム管理開始以来二番目のダム流入量を記録しました。 この最大流入量の時には、ダムで最大毎秒548m³を調節し、ダムからの放流量を毎秒約150m³とする洪水調節を行い、合計約1,077万m³の流水を貯水池に貯め込みました。 今回、日吉ダムの洪水調節により、下流の亀岡地点において、約106cmの水位低減効果があったものと推定されます。 なお、ダムがなかった場合、氾濫危険水位4.50mに達する洪水であったと想定されます。
-----	---

※【洪水調節とは】大雨などにより、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込んで、ダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させることです。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

同 時 配 布	京都府政記者室 南丹市政記者クラブ
---------	----------------------

問い合わせ先	国土交通省近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所 副所長 橋本 和夫 電話：072-856-3131（代表） 独立行政法人水資源機構日吉ダム管理所 所長代理 後藤 孝 電話：0771-72-0171（代表）
--------	--

■ 淀川水系と日吉ダム流域



日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、
ダムの効果発現に努めて参ります。

日吉ダムによって、下流の河川水位を低減！

亀岡地域を流れる桂川は、7月12日からの梅雨前線の影響によって川の水量が増えました。これを上流の日吉ダムに貯め込み、少ない量を放流することによって、桂川（亀岡地点）の水位上昇が約106cm抑えられ、河川水位の低減が図られました。

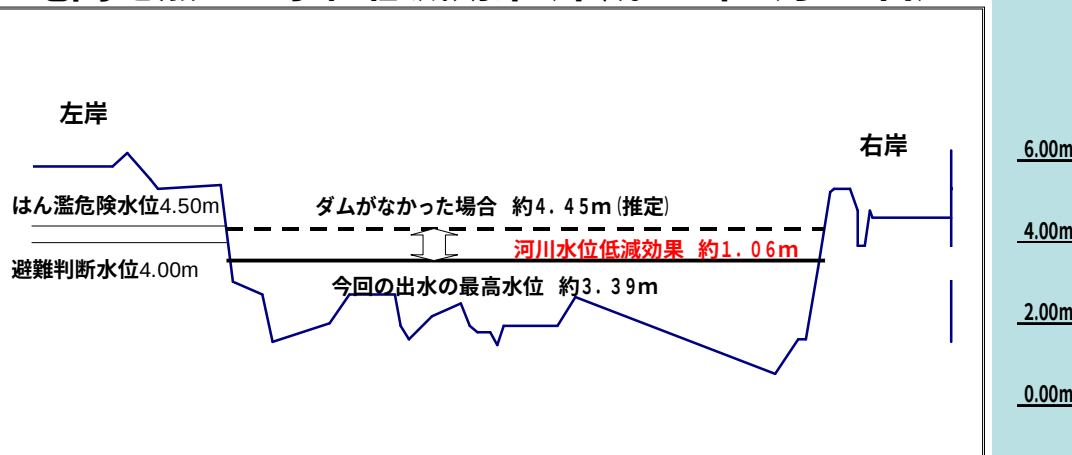


京セラドーム※9杯分に相当する水を日吉ダムにため込みつつ少ない量を放流することで下流の河川の水位上昇を抑えました。（※京セラドームの容量を120万m3として算出）

ダム堤体上流面

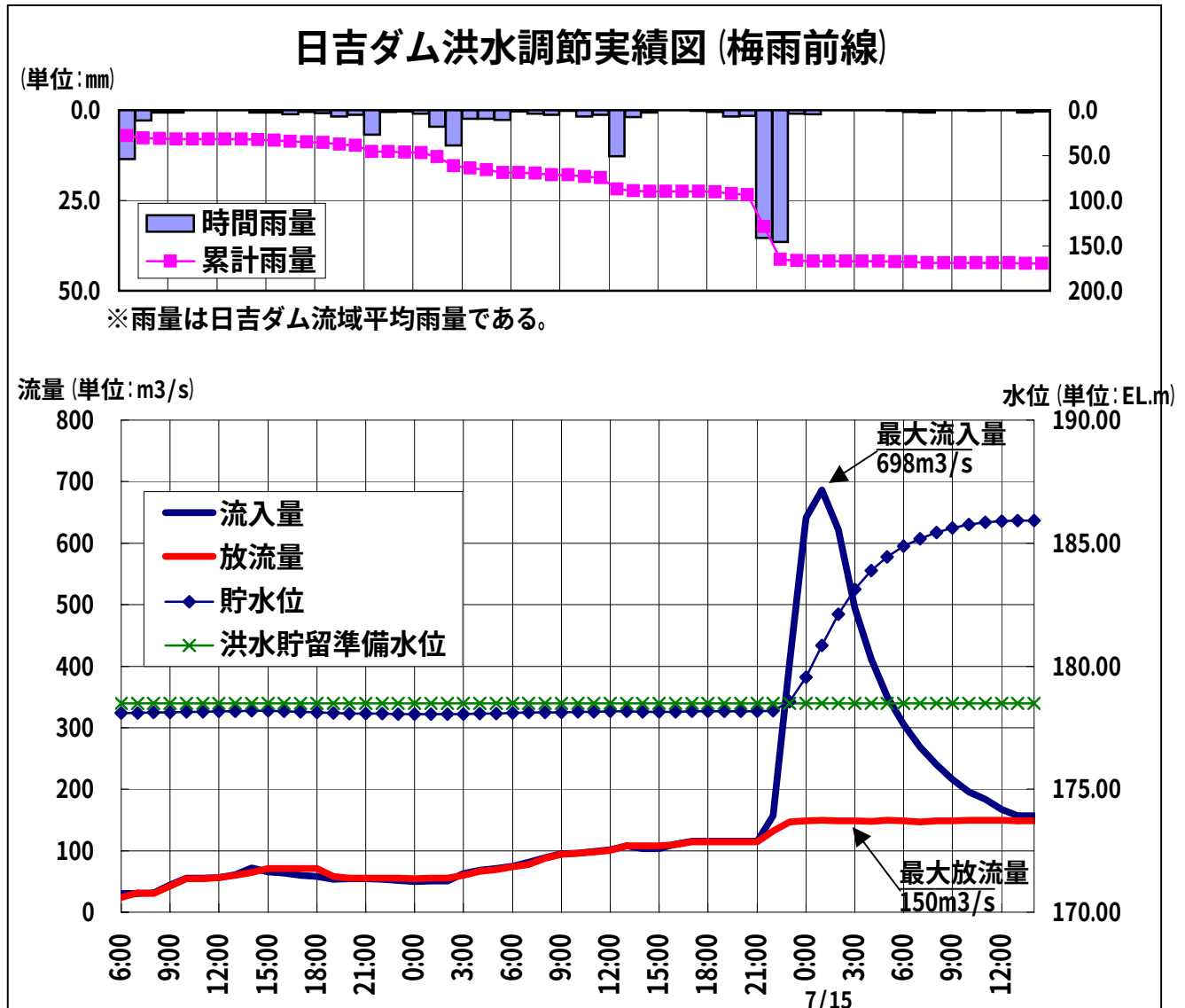


亀岡地点での水位低減効果（平成22年7月15日）



今回の降雨に伴う日吉ダム管理状況について

・平成10年4月管理以降、15回目の洪水調節を実施。[2番目に大きい出水]



管理開始 (平成10年4月以降) の洪水の記録

洪水名	流域総雨量 (mm)	最大流入量 (m ³ /s)	最大放流量 (m ³ /s)
平成16年10月 台風23号	238	856	150
平成22年7月 梅雨前線	170	698	150
平成10年9月 台風7、8号	161	550	114
平成18年7月 梅雨前線	273	494	150